

No. 117 2015. 1

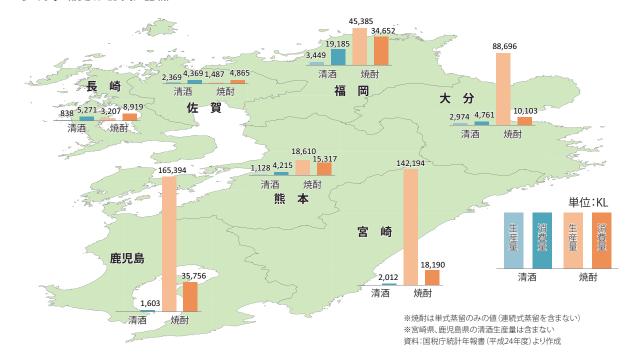
(株) よかネット

# NETWORK

「将来世代に重荷を背負わせない。現役世代の責任です」 宮崎市の施設経営の取り組み 第5回公共施設マネジメント研究会 公開シンポジウム報告(前篇)	2
新宮町協働のまちづくり指針策定に向けた取り組み①	
地域再生フォーラム『場を活かす人とその手法』	7
災害に備えて地域のみんなで考えたことを共有し、行動に移していくための新しい仕組み-「地区防災計画」のご紹介	8
見・聞・食	
田川市空家・空き地プロジェクト始動	9
筑後の酒蔵をめぐる旅	11
球磨焼酎 (米焼酎) の里は、まさに「焼酎バレー」に相応しい 日本焼酎学会蔵巡りIN 人吉・球磨地域	13
近況	
「ヘリテージマネージャー養成講習会」3年計画	18
安心な居住環境を考える	
福岡マラソン 2014 にて、サブスリー達成しました	
念願の第一区分 ?!	
日本酒にハマっています	
冷蔵庫の品定めからライフスタイルの変化に気づく	
結婚しました	
表紙の続き	23
BOOKS	
野に生きる~サンタのいた日々	24

# ●地酒はまだまだ地元消費できそう

日本酒(清酒)と焼酎の生産量と消費量を比べてみました。鹿児島県、宮崎県の焼酎の生産量はずば抜けていますが、大分県、福岡県、熊本県も生産量が消費量を上回っています。やはり九州は焼酎王国です。一方、日本酒は佐賀県と大分県が消費量の半分以上の生産を行っていますが他県は4分の1以下。もっと地酒を消費できる余地がありそうです。(続きは23頁に記載)



# 「将来世代に重荷を背負わせない。現役世代の責任です」 宮崎市の施設経営の取り組み

第5回公共施設マネジメント研究会 公開シンポジウム報告(前編)

本田 正明

11月27日に第5回公共施設マネジメント研究会を開催した。今回は、いつもの研究会と趣向を変えて、公開シンポジウムという形をとった。基調講演で先進的な取り組みを学ぶと同時に、普段から研究会に参加している自治体の方々にもそれぞれの進捗状況を報告していただいた。これまで研究会に参加していない自治体にも参加を呼びかけ、45名の参加があった。内容の濃いシンポジウムだったので、前編と後編の2回に分けて報告したい。

前編は宮崎市企画財政部財政課の鶴岡修氏の 基調講演の内容を以下から紹介する。

#### ●財政計画が公共施設の見直しのきっかけ

宮崎市は平成に入って4町が合併し、人口は約40万人の都市である。財政面では、市債残高が普通会計で2,100億円、企業会計を入れると3,400億円ほどになる。基金は270億円ある。他の中核市と比べて借金も多いが、それなりに基金もある状況である。

公共施設の見直しは、財政課が平成22年秋に中期財政計画を作る際、将来の財政収支を推計したことがきっかけとなっている。平成23年以降収支は赤字が続き、平成26年には基金が尽きるという結果になった。そこから具体的に何を減らすのかを考えることになった。宮崎市では公共施設の関連予算が150億円ほどあり、予算規模の1/10を占めていた。加えて合併によって似たような施設が増加しており、公共施設の見直しが必要という考えに至った。

#### 宮崎市の中期財政計画 (H22年度版)

区分	H21 決算額	H22 予算額	H23 推計額	H24 推計額	H25 推計額	H26 推計額		
歳入①	1,545	1,467	1,470	1,494	1,477	1,469		
歳出②	1,518	1,467	1,541	1,577	1,562	1,558		
収支①-②	27	0	▲71	▲83	▲85	▲89		
財政5基金残高	252	225	169	97	27	▲61		

## ●施設の長寿命化ではなく削減

財政計画を市長に見せて話したが、施設の長寿命化は問題を先送りするだけで、量を減らさなければ意味がないという方向性を確認できた。そこで公共施設見直しの基本方針を自前でまとめた。なお、宮崎市の公共施設の総延床面積は117万㎡(平成24年3月時点)となっている。宮崎市の公共施設が抱えている課題は大きく4点ある。

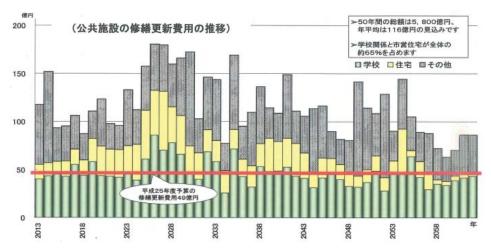
1点目は、人口問題である。宮崎市も他の自 治体と同様に人口問題が重要で、特に生産年齢 人口が30年後には7万人減少することが一番 の問題だ。人口が減るので当然公共施設の量は 現在ほど必要なくなる。生産年齢人口も減るの で税収も減り、公共施設をまかなうお金がなく なる。高齢化も進む。量を減らしつつ高齢者に も使いやすい施設にしていかなければならな い。

2点目は、南海トラフ巨大地震の対策という問題である。被害としては死者数が3,100人、建物の全壊消失2.9万棟という、とんでもない想定がなされている。災害時の防災指令の拠点や災害発生時の活動拠点の整備、建物の耐震化も取り組まなければならない。

3点目は、財政収支(フロー)の問題である。 普通会計において、介護・国保・後期高齢の特別会計への繰出金を社会保障費として組み込む と、この義務的経費が全体の予算1,500億円の 内の約1,000億円、その他の500億円が裁量の

#### 宮崎市の H23 年度予算内訳 (普通会計ベース)





宮崎市の公共施設の 修繕更新費用の 推移グラフ (宮崎市公共施設経営 基本方針より)

大きい経費であるが、その内の約150億を公共施設の経費が占めている。社会保障費が増加し、合併による優遇措置分の段階的な減少も進む中、公共施設を同じ水準で維持することはできず、長寿命化は問題を先送りするだけなので施設を減らさないといけない。

4点目は、老朽化している資産(ストック)の問題である。宮崎市では人口増加に比例して学校、公営住宅を建設し、1980年頃から文化系の施設が増えている。築30年以上経過した施設は全体の半分ほどあり、これからは修理、修繕が大きな財政負担となる。公共施設の150億円のうち100億円は管理費である。修繕更新費用の将来推計のグラフでは、数字上、学校の予算しか確保できない。上記のグラフはハコモノだけで道路、橋りようは含んでいないため、これを見るだけでも長寿命化をしても先送りにしかならず、量を減らさないといけないということがわかる。

# ●「総量の最適化」と「質の向上」を目指す 施設経営

宮崎市では施設経営について2つの方針を立てている。一つ目は量を減らしていくこと。二つ目は管理費を抑えることだ。長期的には量を減らして、短期的には管理費を抑える。使用料をしっかり確保して費用対効果の高い経営に転換していかなければならない。「総量の最適化」と「質の向上」。この二つをキーワードにしている。

宮崎市は「公共施設マネジメント会議」とい うものを作っていない。市長が入る会議で意思 決定しないと意味がないため、もともとある政 策決定を行う最上位の会議で公共施設の見直し をすべて決定することにしている。首長がブレ ると絶対に進まないという考えだ。

## ●大事なのは「中身・サービス」という視点

「総量の最適化」を実現するため、平成25年度から施設評価を実施している。施設評価は事業評価と違い相対評価ができるため、類似施設と比較する。施設評価はデータベースを使って、市民に将来に渡って保有する施設を選択する。

評価の考え方は単純だ。A資料館は建物は古いが利用者は多い。B資料館は建物は新しいが利用者は少ない。定性的なデータや指定避難所がどうかなども勘案し、特別な要因が無ければA資料館は建替え時期が来たら建替えずに中の展示機能をB資料館に移す。そうすることで市の負担も減り、サービスも充実する。さらにA資料館を売却した利益でB資料館を充実させられる。一番大事なのものは資料館ではなく中身、サービスという視点である。

具体的な例として、立体駐車場の修繕があった。これまでの財政課だったら「今修繕しなければいけないのか」「修繕費は下がらないのか」を査定していたが、今回はライフサイクルコストや利用状況などを分析した。その結果、立体駐車場を止めて民間駐車場を借りるほうが年間300万円以上安く済むことがわかった。ワンボックスカーも停められるようになり、非常に好評のようだ。

こうした分析手法をもとに、「総量の最適化」 と「質の向上」を進めていく。

## ●施設の評価は所管課立案

施設の評価に際し、「この施設は廃止だ、統合だ」という評価は財政課では行わない。所管課に評価の案を作ってもらう。なぜなら最後に施設を廃止することを市民に話すのは所管課であり、議会答弁も所管課が担う。「所管課が自分たちの施設をどうするかを考えないと絶対にうまくいかない」という視点である。その案を財政課の担当、課長、部長と市長がヒアリング。そして評価案を公表して市民の意見を聞き、最終的な評価決定を行う。昨年度は「広域の施設(文化ホール、歴史資料館、キャンプ場など)」の評価を行った。その理由は費用が一番かかっているからだが、受益者層が薄く、反発が少ないからという理由もある。

## ●「市民アンケート」の総論の活用

市民の納得を得るために「市民アンケート」 を行うことは非常に有効な手段と捉え、平成25 年12月に実施した。

「宮崎市では今後人口が減ります。社会保障費も増えるので、全ての施設を将来にわたって持ち続けることはできません。そこで市民の皆さん、今からどうすればいいと思いますか」と問いかけたところ、市民の7割が施設の見直しを選択した。これが「市民の総論」である。

アンケートの総論を活用して、昨年度は341施設のうち88施設の見直しを行った。その結果、廃止した施設が16施設、統廃合検討の俎上に上げられた施設が10施設となった。今までそういうこともできなかったのでやはり市民の声が大きかったと感じる。

また、同じ利用用途の施設の「今後の経営の 方向性」を評価に合わせて決定。方向性では「新 たな施設は作りません、面積は減らします」と いう踏み込んだ文言を入れている。これにより 建替え予定があった集会施設も既存施設を使う という方向に導くことができたと考える。

#### ●アドバルーンを上げる

平成25年度の評価では、合併で5施設になった歴史資料館が含まれる。合併した町で増えた施設をすぐに廃止できるかといわれると、なかなか難しい。そこで「歴史施設に年間2.2億円

かかっており、利用者も少ないため機能を一緒にすればより便利になると思います」という提案を行ったうえで「2年くらいかけて再配置計画を立てます。これらの施設は統廃合の候補です。見直しの俎上に上げさせてください」という趣旨で「再配置」という評価でまとめた。

このことによって市民の反応が分かり、市民の反対が多くて廃止できない施設が分かる。「再配置」というアドバルーンを上げて市民の反応を見る。例えば、あまり反対のない施設、かつ管理費の大きい施設を廃止する方向に持っていきやすくなる。また、旧宮崎市の施設を廃止することにも大きな意味がある。そうすることで合併によって宮崎市になった市民も、自分たちの町の施設を廃止することに納得できるようになるという考えもある。

次に、科学と自然の資料館が2施設あり、この施設は大変人気があるが、2施設で年間2.6億円の維持費がかかっており、10年以内に大規模な修繕を見込んでいた。これらの施設に関しては、「再配置」の一つ手前の「あり方の検討」という形でアドバルーンを上げた。その結果、残してくれという意見もあったが、二つを一つにして効率的にしてほしいという意見もあり、統合案を探ることがやりやすくなったと思う。

## ●公共施設は宝の川

講演の冒頭に公共施設に関して「誰が責任取るのか」と皆さんに問いかけたが、私たち現役世代がやり始めないとダメだ。これをチャンスと思って頑張ってほしい。

最後に市長の答弁を紹介したい。

『私たちは、現在の市政を預かる者として、将来世代に重荷を背負わせないように、この問題 から目をそらさず、しっかりと向き合い、解決していくことが私たちに課せられた大きな使命の一つであると考えています』

首長が本気になること、職員に仲間を作ることが大事だと感じる。また、施設総合管理計画という重い宿題に対して、どの様に取り組んでいくか。道路も上下水道も削減が無理なら、学校以外の施設を減らすしかない。そのあたりを思い切って打ち出したほうがいいが、すぐに削



シンポジウムの参加者の様子

減はできない。まずは受益者層の薄いところから、焦らず着実に進めていければと思う。

また、公共施設の見直しは財政課にとって宝 の山である。例えば、消費税が上がっても公共 施設の指定管理料の見直しによってお釣りが来 た。ぜひ頑張っていただきたい。

(以上が講演内容)

## ●現役世代が責任を取ることの意味

私はまず鶴岡さんの若さに驚いた。事前に資料をいただき、目を通していたものの、かなり戦略的な取組をされているので、50代ぐらいの人だろうと勝手にイメージしていた。

基調講演の冒頭に「2月に生まれた子どものために燃えている」という言葉を聞いたときに、同じように小さな子を持つ親として、真剣さが伝わってきた。20年後も現役で責任を問われる30代、40代の人たちこそ公共施設の問題に真剣に取り組まなければならないと思う。

私もいろいろと自治体の方々から相談を受けるので、「若いから権限がない」「首長の理解がない」という声を聞くが、宮崎市の話を伺っていると、それは言い訳だなと思った。

宮崎市も市長のトップダウンで行ったわけでなく、中期財政計画で財政が破綻しそうだから、公共施設の削減に踏み切ったわけで、当初の公共施設経営基本方針などを自前で策定している。しかも予算編成と兼務である。市長に対しても、施設のデータ分析、市民の意見結果などを踏まえながら、公共施設マネジメントの先進地で活躍している有名な職員を招いて施設経



鶴岡氏の講演の様子

営がいかに重要かを話してもらい、最上位の会議で意思決定をしてもらうなど、用意周到な準備と行動をされている。要は職員のやる気の問題なのだ。若い職員たちが、このままでは自分の自治体を維持できないかもしれないという危機感を持って行動に移せるかが重要になっている。

## ●未合併の自治体はどうなっているか

宮崎市の取り組みは、合併した自治体にとっては非常に参考になると思う。紙面の都合上、紹介しきれなかったが、類似規模の施設をカテゴリーごとに整理し比較しながら、統廃合を検討する方法などは、非常に有効だと思う。一方で合併をしていない自治体にとっては、類似や重複する施設や広域的な施設がほとんどなく、学校や公営住宅の削減も限られる中で、何を削減するかは、非常に悩ましい問題である。

福岡県内は合併した自治体が少なく、人口減少が進む旧炭鉱都市も多い。中小規模の自治体の公共施設マネジメントの抱える問題については、シンポジウムの後半で宗像市、大牟田市、玖珠町、遠賀町に取り組みの現状をご報告いただいた。厳しい財政状況の中、自治体の主要施策と施設管理の整合性をどのように図るか、これまで先送りしてきた施設の維持補修費用をどう平準化するか、下水道などのインフラをどのように扱うかなど、自治体ごとに課題はさまざまである。その内容については、次号の後編で報告したいと思う。 (ほんだ まさあき)

## 新宮町協働のまちづくり指針策定に 向けた取り組み①

山﨑 裕行

今年度、弊社では、WithLaboの貞清さんとともに、新宮町地域協働課から委託を受けまして、「新宮町協働のまちづくり指針(以下、協働指針)」策定のお手伝いをしています。現在、まだ策定中ですが、どのようなプロセスで策定しているか、ご紹介したいと思います。

## ●策定の目的

新宮町では、『第5次新宮町総合計画 - みんなの新宮町未来計画 - (平成23年3月策定)』において、まちの将来像を実現する基本理念の一つに「協働で拓くまちづくり」を掲げています。しかし、「協働」の考え方や必要性について、必ずしも浸透しているわけではありません。今回策定する協働指針は、協働のまちづくりとはどういうことなのか、なぜ協働のまちづくりを進めていく必要があるのかなど、まちづくりに関わるすべての人が共通認識を持つために、その基本的な考え方を示すものです。そして、何よりも、新宮町の職員の皆さんが協働の考え方を理解することを目的としています。

# ●新宮町における協働について考える合同ワー キングの開催ーポイントは対話ー

策定に向けて、合同ワーキングを開催しました。この合同ワーキングは、新宮町で既に活動されている公益活動団体、福祉ボランティア団体の方と町職員とが参加し、協働のまちづくりについて理解を共通にするとともに、新宮町の今後の協働のまちづくりに向けて、現状を共有することを目的としました。

当日は、貞清さんの進行のもと、ワールドカフェの手法を用いて約40名が各テーブルに分かれて意見交換を行いました。様々な立場、活動の方が参加されたわけですが、私が一番関心を持ったのは、「協働がどうすれば進むか」という問いについての意見でした。どこも、「話す機会(情報交換)を作る」や「情報を発信する」、「活動出来る場を確保する」といった対話

と交流、そのための場が必要との意見が多く聞かれました。SNS に限らず、町の広報や各団体が作成するチラシ等、情報ツールは多くあります。しかし、なかなかお互いを知る機会がないということが分かりました。ツールがあっても、それを上手く使いこなすことが出来ないということもあると思いますが、ツールを使って相互の対話や交流を生み出す場、人材が必要だということを再認識しました。

#### ●職員主体の協働指針策定

今回、私どもの役割は、協働のまちづくりについての大きな枠組みを提供することにあり、どのような内容とするかについては、有志の職員によるワーキングチームが主体となって作業を進めています。この点が、今回の策定の中で一番の特長といえます。「職員が『協働のまちづくり』について再認識し、住民の皆さんにわかりやすく伝えることができるものをつくろう」という基本的な考え方が、そこにはあります。

職員ワーキングの作業内容は、ページ構成にはじまり、各頁で記載する内容、町民の皆さんにも分かりやすい文章表現・デザインと多岐にわたっています。これまでに2回会議を開催しましたが、毎回熱心に議論を頂き、非常に分かりやすいものが出来上がりつつあると思います。「一般の方にも分かりやすく」というのは、普段、我々も注意するところですが、どうしてもお役所言葉を使いがちです。職員ワーキングでは、なるべく短く、聞き慣れた文章で書くこと、文字も大きく、イラストを用いて親しみやすいものとすることなどを確認し、協働指針作りを進めています。

## ●自治会、NPO・ボランティア団体の代表者及 び専門委員で構成する委員会の開催

今回の協働指針の策定に当たっては策定検討 委員会を設け、そこで職員ワーキングで検討し た内容について、意見を頂くかたちをとってい ます。策定検討委員会は、合同ワーキングに出 席頂いた団体の方をはじめ、自治会の代表者の 方、専門委員で構成されています。職員ワーキ ングで取りまとめた案については、この委員会



合同ワーキングの様子

での意見を踏まえて、内容を修正します。そして、新年早々にパブリックコメントを実施し、 年度内には協働指針を取りまとめる予定です。

今回は途中経過ということで、策定に向けた プロセスをご紹介しました。次回は、どういう 協働指針が出来上がったのか、是非、ご紹介し たいと思います。 (やまさき ひろゆき)

## 地域再生フォーラム 『場を活かす人とその手法』

山辺 眞一

NPO 法人の TOM ネットでは、全国で開催する 地域再生フォーラムを共通のテーマで行ってい る。今年のテーマは、公的な遊休不動産の有効 活用により、まちなかの新たな価値を生み出す 可能性について、事例等を通して考えてみよう というものであった。

九州のフォーラムでは、東北会で理事をしていただいている東北学院大学の柳井雅也先生に基調講演をお願いした。また、リレートークでは、佐賀市で長く中心市街地活性化に携わっておられる池田剛経済部長とTOMネット会員の小柳文氏に事例報告をお願いした。

## ●遊ぶ土地で猶予も必要

柳井先生は、7つの点について話をされた。

- 1. 場の力を引き出すことにより、土地の価値を上げることが必要である。
- 2. 場を集積させることによる利益、合わせ技が大事である。
- 3. 目利きを活用することで誰を対象とするのか、ターゲッティングをしっかり行うことが

必要である。

- 4. 場、点の連携や協力によって、面としての まちづくりに展開していくことが必要であ る。
- 5. 場の力を引き出すために、まちづくりの取り組みが相互に連動し、連携していくことが 大事である。
- 6. 外部の人、起業家などの参入障壁をなくすことが重要である。
- 7. どうしても駄目な場合は、土地を『遊ばせておく』ことで猶予を与え、公園化して活用することも選択肢の一つである。

詳細は割愛するが、遊休不動産となる問題は、 戦前までは稼働していた「家守(やもり)」に よる不動産管理の仕組みが、戦後は崩壊し、土 地の細分化やコミュニティの分断が起こったこ とに起因しているという視点から、近年取り組 みが行われている現代版「家守」の目利きによ る、コミュニティの再生、産業の活性化への取 り組みが有効であること、同時に、行政の支援 を導入しながらも、起業家や民間の参入がしや すい環境をつくることが大切であるという指摘 をされた。

## ●投資を呼び込むための行政の取り組み

佐賀市の池田部長の報告では、中心市街地の活性化の取り組みを3段階に分けて紹介された。まずは「働く人を増やしてにぎわいをつくる」ために、公共施設のまちなかへの立地を仕掛けること、そして「公共施設への来訪者によりまちなかへ来る人を増やす」、その結果、人の往来、来街者が拡大することで、まちなかへの民間投資を誘導し、資産価値を高める。行政の仕事は、民間投資を誘導することであり、その仕掛けをつくっていくことが必要ということであった。

そのためには、まちなかの閉鎖施設、閉店店舗などを安い費用で取得することや、国や県の公共サービス施設の再編情報に迅速に対応することなど、いくつものポイントがあるとのこと。 当然話せないことも多いようである。

一方、小柳氏によるトロント市の報告では、 イベントの展開により、中心市街地の魅力を維 持、都市運営を行っている事例であった。 人口260万人のトロント市は、「ひとのあつまるところ」という意味から名付けられた場所であり、多民族が共生している都市でありながら、治安の良さがウリの都市である。白人は人口の約50%であり、短期滞在外国人、観光客、そして留学生が多数滞在している都市である。多くの外国人や異なる民族の人々が共に暮らし、楽しめる都市として、イベントの効果は大きいようである。またイベントを主催する様々な民俗、団体、セクターによって、多様な人々の出会い、コミュニケーションをつくるきっかけともなっている。

毎年夏と冬に行われている「SUMMERLICIOUS & WINTERLICIOUS」は、地元のレストランが客足が比較的暇な時期に客を呼び込むために30軒ぐらいが共同で始めた食のイベントであったが、今や大規模なイベントとして定着している。仕掛け、そして続けていくということは、まちの価値を高める大きな要素である。

(やまべ しんいち)

災害に備えて地域のみんなで考えたことを共有し、行動に移していくための新しい仕組みー「地区防災計画」のご紹介ー

山﨑 裕行

これまで数回にわたり、自主防災組織や地域での防災・減災に関する取り組みについて、ご紹介してきました。今回、それらと密接に関連する新しい仕組みについてご紹介したいと思います。それは、災害対策基本法の改正で平成26年4月1日に施行された「地区防災計画」のことです。具体的な内容については、内閣府が平成26年3月に地区防災計画ガイドラインを策定し、ホームページ上で公開していますので、そちらをご覧頂ければと思います。地域にとって、どのように役に立つのかという視点でご紹介したいと思います。

地区防災計画に関する HP

(http://chikubousai.go.jp/index.
html#about)

## ●地区防災計画とは

ガイドラインでは、次のように紹介されています。

「地区防災計画制度は、市町村内の一定の地区の居住者及び事業者(以下、地区居住者等)が行う自発的な防災活動に関する計画ですが、市町村地域防災計画の中に同計画が規定されることによって、市町村地域防災計画に基づく防災活動と地区防災計画に基づく防災活動とが連携して、共助の強化により地区の防災力を向上させることを目的としています。また、地区居住者等が市町村防災会議に対して計画に関する提案(計画提案)を行うことができることになっており、市町村防災会議には、それに対する応諾義務が課せられています」

整理すると、①市町村内の一定の地区の地区 居住者等が行う自発的な防災活動に関する計画 であること、②市町村地域防災計画の中に位置 づけられる計画であること、③地区住民等が市 町村防災会議に対して計画提案できるという3 点が特徴といえます。

## ●みんなで防災について考える

さて、この地区防災計画ですが、地区防災計画で避難訓練や食料の備蓄などを決めた場合に、国から補助金などによる支援があるかと言えば、現在のところ直接的な補助金などは予定されていません。ただし、食料の備蓄や資機材の整備について独自に補助を行っている市町村もあるので、一度、調べてみるとよいと思います。では、地区防災計画を策定する意義はどこにあるのでしょうか。私は、3つあると考えます。

1つ目に、策定過程において、地域の皆さんに防災について考えてもらうきっかけを提供できるという点です。防災の取り組みは、「みんな重要だし、大切だと思っているけれど、なかなか具体的に考えたり、行動に移したりすることがない」ものではないかと思います。地区防災計画の策定を進める上では、災害履歴を調べたり、地図上に危険箇所や災害が起きた場所をプロットしたり、あるいは実際に地区内を歩き回って危険箇所を把握したりすることが重要となります。

「思う」だけではなく、「行動」のプロセスが 必ず加わるはずです。そこで、例えば、自治会 の会合に合わせて地図を広げて、みんなで危険 箇所などをプロットする、敬老会で集まった地 区の長老に過去の災害について聞き取りする、 子ども会の廃品回収に合わせて"まちあるき" をするなど、子どもから高齢者まで防災につ いて考えるよい機会となるのではないでしょう か。

## ●作ったら終わりではなく、継続して取り組む

2つ目に、市町村の地域防災計画に位置づけられることで、一度作ったら終わりではなく、継続して取り組む動機付けになるという点です。地域防災計画に位置づけられると、市町村にも地区防災計画の運用状況をしっかりと把握していただくことになります(外からの目)。

また、地域防災計画は毎年検討を加えて、必要があると認められる時は修正しなければならないことになっています。したがって、年に1回以上は地区防災計画の内容についても検討を加えることになると思います。検討を加えるということは、地区防災計画に記載した防災訓練を実施して、その効果を検証し、場合によっては訓練内容を見直したり、防災活動の内容(防災活動の体制や平常時、災害時の活動内容)を見直したりすることになると思います(内からの目)。

この意味で、地区防災計画は作ったら終わりではなく、継続して取り組むための仕組みが盛り込まれていると言えるでしょう。外からの目と、内からの目で、よりよい地区防災計画にしていくことになります。

## ●一人ひとり、そして地域全体の防災意識向上へ

3つ目に、1つ目、2つ目を通じて一人ひとりの防災意識の向上が図られるとともに、地域全体の防災意識の向上につながるという点です。ガイドラインでも書かれていますが、地区防災計画は、その地区をよく知る地区居住者等自身により作成されるボトムアップ型の計画です。計画策定を通して、あるいは計画策定後の定期的な見直しのなかで、防災に対する意識は確実に変わっていくと思います。また、防災に

限らない効果も考えられます。例えば、災害時 要援護者(避難行動要支援者)の把握は、日常 的な高齢者の見守り活動に、避難路の安全点検 は、防犯パトロール活動につながるかもしれま せん。

地区防災計画はあくまでもツールであり、策 定すること自体が目的になることとは、違いま す。ツールである以上、どのように使うかは策 定主体の考え方次第です。地域の防災力強化に 向けて、一度、検討してみませんか。

(やまさき ひろゆき)

## 田川市 空家・空き地プロジェクト始動

山田 龍雄

昨年の7月初旬、熊本学園大学の豊田謙二先生(元福岡県立大学教授)から「田川市で空家を使った事業を始めたいので、第1回目のワークショップに参加して欲しい」との連絡を頂きました。10数年前、先生に日本焼酎学会にお誘いいただき、今でも例会で美味しい焼酎を飲みながら焼酎談義をさせていただいています。このような関係もあって先生から気楽にお声をかけていただいたものと思います。

弊社では、昨年度福岡県都市建築部住宅計画 課の仕事で「空き家対策事例集」策定のお手伝 いをしたこと、また、個人的にも今後の空き家 の解消や活用について興味があったことから、 このプロジェクトへの参加を快諾しました。



第3回ワークショップの様子

#### ●なぜ田川で空き家・空き地活用なのか

もともと豊田先生は専門の社会福祉学を学問の領域だけではなく、地域社会への実践活動につなげていくことを意識されており、福岡県立大学在籍中に①資源リサイクルシステム構築への支援とともに、リサイクルの事業化を推進すること、②種々の自然環境保護団体と協力しつつ、水源の保全・河川の浄化、森林の涵養などを目指すこと、③食の安全性を確保し、楽しい食卓づくりに貢献するために農業者との連携を深めることを目的に、NPO法人自然・環境保護協会を立ちあげられました。今は「(仮称) 茶会」にマネージャーを配置し、ボランティア活動をサポートする活動などをしています。

先生は「人は他者なしに人間らしく生きられなく、近年での空き家、空き店舗及び空き地の拡がりは、人と人との距離、間を拡大しつつあります。社会的に孤立に追い込まれています。人と人とをつなぎ止めるためには、放置ではなく活動をしていくことが大切です。」と言っておられます。このプロジェクトは、このような先生の思いを受け、空き家等を活用し、「集い」「活動」の場を提供できないかということで始

まりました。

## ●どのような活用が考えられるか

第1回ワークショップは、昨年の7月22日、 豊田先生のネットワークのある関係者(福岡県立大学関係者と看護学科の学生、福祉関係の NPO、日本焼酎学会メンバー、その他)総勢30 数名が集まり、実施しました。

第1回目では、まだ、活用できそうな空き家が決まってなかったので、4つのテーブル毎に自由に①空き家でどのようなことをできそうか、どのようなことをしてみたいか、②その運営主体をどうするのかなどを話し合いました。

その中では下の表のようなユニークな意見が あげれられました。主なものを抜粋します。

次に第1回ワークショップの意見を少しでも前に進めようと、第2回ワークショップを10月1日に実施しました。今回は、主に①誰が主体となって運営していくのか、②どのようにリフォームなどの初期費用や運営資金を捻出するのかといった現実的な話が出されました。また、活用の話も、空き家の場所によって違ってくる、あるいは利用目的に応じて場所を選定すべきであるなど、もっともな意見も出され、実際に空

表 第1回WSでの主な意見

文化事業	新しい住まい ・ 商いの場	居場所づくり	田園構想 (空き地)	その他
<ul><li>①図書館づくり</li><li>・ミニ絵本館</li><li>・高齢者を先生に</li><li>②ミニ公民館</li><li>・貸しスペース</li><li>・趣味の会</li></ul>	<ul> <li>自治会の貸家</li> <li>学生のシェア ハウス</li> <li>現在版長屋 づくり</li> <li>野菜販売</li> <li>一坪商店づくり</li> </ul>	<ul><li>①カフェサロン</li><li>・親と子どもの交流</li><li>・高齢者が集まれる場</li><li>②子育て支援</li><li>・学童保育</li></ul>	<ul><li>・花を植える</li><li>・畑作り</li><li>・就労支援と兼ねる</li></ul>	<ul><li>・子供たちの遊び場</li><li>・ビオトープ</li><li>・介護予防としての活用</li><li>・環境保全の視点も考慮</li></ul>



空き店舗が多い伊田商店街



リフォーム済みの空きスペース〜今後、これをどの ように有効活用するか

き家のメボシをつけてから、活用の実現性について意見を煮詰めることを確認し合いました。

第2回ワークショップの1か月後ぐらいに豊田先生から「伊田商店街の中で空き家が借りられそうです。これをもとにワークショップを行いたいので協力して欲しい」との連絡があり、第3回ワークショプを11月25日に実施しました。

# ●第3回ワークショップ~実際の空きスペース での活用方策を考える

空き家と思っていた物件は、実は現在、福岡県立大学のサテライトとして伊田商店街組合から無償で借り受け、学生が週2回、2時間程度「学習塾」のボランティアをしています。既にリフォームされており、ミニキッチン(本格的な料理はできない)、多目的用トイレも完備しており、15坪ほどのスペースがあります。また、家賃等の支払いもないので、非常に好都合な物件であるし、有効活用しないともったいないスペースです。今回のワークショップでは使用していない時間帯をどう有効に活用するかをテーマに話し合いました。

参加者は10数名程度でしたが、場所と具体的なスペースをイメージできることから「伊田商店街の中なので、日常的には周辺の人しか集まらない」「食事を提供するなら店舗とそこのメニューだけ用意し、出前でやってはどうか」「電気ポットが使用できるなら、コーヒーやお茶ぐらいは、1杯100円程度で提供してはどうか」など具体的な話しが出て来ました。活用案として①認知症カフェ、②多目的スペース(ミニ映画大会、ギャラリー、会議の場など)が出されました。私個人としては、高齢者だけではなく、幅広い年齢層に使用してもらい、地域の交流の場となればと考えています。

今後の課題として①学生との連携、②行政との連携、③誰をマネージャーとするのか、④周辺住民や市民への周知の方策など山積みですが、一つひとつ解決しながらスペースの有効活用ができればと思っています。このプロジェクトは、始まったばかりであり、今後の進捗状況については、その都度ご報告したいと思います。(やまだ たつお)

# 筑後の酒蔵をめぐる旅

本田 正明

「筑後の酒蔵を一緒に見て回りませんか?」というお誘いを九州芸文館の安西さんからいただいた。地域ゼミ「筑後船小屋のまち歩き(第91回)」や「筑後七国の酒文化を愉しむ(第97回)」でお世話になっているし、酒好きな私が断る理由がない。

今回の視察は、筑後七国の酒文化を活かした 着地型観光商品をつくるために、自治体や観光 協会の関係者と現地をみようという主旨だっ た。簡単にいえば商材の目利きである。1日で 矢部川流域の酒蔵を11箇所も巡るという強行 日程だったがどの蔵も個性的で面白い。時間が 限られていたので、詳しい話は聞けなかったが、 特徴的だった3蔵を紹介したいと思う。

## ●年中生産を目指す「喜多屋」

最初に訪れたのは、2013年の IWC (インターナショナル・ワイン・チャレンジ) の日本酒部 門で最優秀賞を取り、すっかり有名になった喜 多屋である。入口を入ると、2m はありそうな杉 玉が出迎えてくれる。もともと「白花」という屋号だったそうで、煙突にもうっすらとその痕跡が残っている。

蔵の中に入ると、蔵人がちょうど甑(こしき)で蒸した蒸米を麹室(こうじむろ)に入れる前に放冷している作業に出くわした。11月上旬なのにずいぶん早い仕込みだなと思ったのだが、



温度管理が行えるサーマルタンク。IWC 受賞時の温度管理が目安だそうだ



玉水酒造の麹室(こうじむろ)。最近は塩麹などのブームで、麹だけつくることもあるそうだ

その理由はすぐに分かった。

喜多屋では温度管理の行えるサーマルタンクなどの最新設備を導入している。夏でも真冬と同じ温度を維持できるわけだ。搾りはどうしているのかと思ったら、巨大な冷蔵庫の中に機械があった。これによってほぼ年中仕込みができるそうだ。大吟醸のタンクを見せてもらったが、中から吟醸香が香ってくる。朝一番から早くもお酒が飲みたくなった。現在の温度管理は、IWCを受賞したタンクの温度管理がベースとなっているそうだ。手間と人手をかける部分と先端技術が融合した現代の酒造りを見させていただいた。

#### ●昔ながらの仕込み「玉水酒造」

午後に訪れたみやま市の玉水酒造は昔ながら の酒蔵である。喜多屋と違って、仕込みの準備 もまだ始まっていない。蔵人は山川のみかん農 家で、11月はみかんの収穫に追われているそう だ。仕込みは1月~3月の寒仕込みである。

お酒につかうお米も地元であれば、消費もほとんど地元である。古代の品種である神力という米で仕込んだ酒(その名前も神力)を出している。ラベルも自作だそうだ。3月の蔵開きには近くの小学校のグラウンドが満車になるほど人が集まり、レジャーシートや弁当を持参してくるらしい。まさに地元に愛されている地酒である。

## ●新たなチャレンジを続ける「若波酒造」

日が暮れる直前に訪れたのは、大川市にある 若波酒造である。明日から仕込みを始めると



若波酒造の蒸米を放冷して運ぶための台。無数の穴 と滑車がついている。家具のまち大川ならではの道 具

あって、蔵の道具の手入れがなされ、ほのかに 蒸気が立ち昇っていた。蔵を紹介していただい たのは、8代目杜氏の今村さん。女性杜氏であ ることにも驚いたが、蔵の中がまっすぐに見渡 せる動線とフラットな床だったことにも驚い た。先代がつくったバリアフリー酒蔵だ。この 動線のおかげで、労力もかなり削減できている そうだ。蒸米も床で放冷するのではなく、滑車 のついた台に載せて麹室までまっすぐに運ぶこ とができる。その台には蒸米を早く冷やすため の穴まであいている。さすが家具のまち大川だ と思った。あまおうやカシスのリキュール、酒 造りの道具をインテリアとした『利き酒処』等、 女性らしい取り組みも積極的に行われていた。

## ●筑後の酒のファンを育てよう

今回、蔵を巡る中で、筑後の酒蔵を集めたパ ンフレットや展示会等も企画されているという 話を聞いた。地元で盛り上がるのは非常にいい ことだなと思う。私たちみたいな外部の人間に 何がお手伝いできるだろうと考えたときに、思 いつくのはやはりファンづくりだと思う。幸い 日本酒は毎年新酒が出るので、気に入ってもら えればリピーターになってくれそうだ。ファン を集めるための母体として、まず研究会をつ くってはどうかと提案したところ、さっそく準 備会をやろうという話になった。左党が多いの で話は早い。飲むことはもちろんのこと、酒米 や杜氏など、面白い話はたくさん眠っていそう だ。研究成果は本誌でも随時紹介していきたい と思う。 (ほんだ まさあき)

## 球磨焼酎(米焼酎)の里は、まさに 「焼酎バレー」に相応しい

日本焼酎学会蔵巡り IN 人吉・球磨地域

山田 龍雄

今年の焼酎学会の研修先は、古来、人吉・球 磨地域で造られていたという米焼酎の蔵巡りで した。

縁あって懇意にしていただいているあさぎり 町の愛甲町長のお世話もあり、9月27~28日 の一泊2日で6つの蔵を見学させていただきま した。

各蔵巡りの報告をする前に、球磨焼酎の基本 的なことを説明します。

## ●球磨焼酎とは

球磨焼酎には、厳格な定義がなされています。 それは①米のみを原料とする、②人吉・球磨地 域の地下水で仕込んだもの(球磨川及び球磨川 に注ぐ支流河川の水を含む)、③人吉・球磨地 域で単式蒸留し、瓶詰めした焼酎だけが「球磨 焼酎」と呼ぶことができるそうです。

球磨焼酎は世界貿易機構(WTO)によって、 地理的表示の産地指定を受け、国際的にブランドが保護されています。これはウィスキーのスコッチ、ブランデーのコニャック、ワインのボルドーと肩を並べるものです。現在、球磨焼酎の蔵元は、人吉市9蔵、多良木町7蔵、あさぎり町5蔵、湯前町2蔵、錦町2蔵、水上村2蔵、球磨村1蔵の計28蔵です。しかし、隠れ球磨 焼酎が1蔵あります。

それは熊本県立南陵高校食品科学科が醸造している焼酎です。南陵高校では焼酎づくりの許認可を含めて約10年の準備期間を経て平成17年(2005年)に醸造をスタートさせています。自分たちの米焼酎を造り、卒業して20歳になったときに飲むとのこと。この取り組みは、球磨焼酎の伝統を守り、後継者を育てようとの思いが先生と蔵元のタッグを生んだものであり、非常に素晴らしい取り組みです。

高校での焼酎づくりの体験から新たな後継者 が育っていくことに期待したいものです。

## ●球磨焼酎はいつごろからあったのか

今、私の手元に「球磨焼酎(球磨焼酎酒造組 合編:弦書房)」という本があります。これに は球磨地域、球磨焼酎の歴史が記録されていま す。この本から少し引用させていいだきます。

- ・1546年に島津氏の貿易港である揖宿郡山川港 周辺に滞在したポルトガル商人ジョルジュ・ アルバレスの見聞録「さらに日本の諸事情に 関する報告」の中で、『食物は米、そら豆、さ やえんどう、きび、ひえ、山芋、小麦である。 (中略)彼らは米から作るオラーカ(※)と、 老いも若きも一般的に誰もが飲むもう一種類 の飲み物(お茶)を飲む』と記されている。
- ・16世紀前半、球磨地域を治めていた相良藩は、 当時、八代港を拠点に琉球国との交易も行っ ており、1542年には琉球国からの進物として 砂糖150斤が贈呈されたとの記録がある。し



人吉盆地に分布する球磨焼酎 28 蔵



国の重要文化財となっている太田家住宅



土間の中央に鎮座する竈(カマド)

たがって、この時期に琉球国から泡盛の技術 が伝わったのかも知れない。

・「相良家文書」に 1592 ~ 1598 年の文禄・慶長 の役で秀吉に従軍した相良軍も朝鮮人技術者 を連行し、人吉の唐人町に住まわせ、僧侶や 山伏、陶工になったものがいた。この他に朝 鮮半島式の蒸留技術を伝えていた技術者がい た可能性が強く指摘されている。(球磨焼酎の 歴史より)

※オラーカとは、中東・インド・東アジアで呼ばれていた「蒸留酒」のこと。一般に火にかけて造る酒という意味がある

この記録をみると 16 世紀前半には、米焼酎が庶民の間で普通に飲まれていたことになるので、これ以前から焼酎製造は伝わっていたのではないかと思われます。このときの米焼酎とはどぶろくの搾りカスから蒸留した「カストリ焼酎」ではなかったのかと推測されます。

これらの記録をみると米焼酎は朝鮮から伝 わってきたといわれていますが、それ以前は沖 縄の泡盛の技術も伝わっており、その後、朝鮮 式の蒸留法が導入されて生産量も高まり、江戸



江戸時代は木樽を使った兜式蒸留で焼酎を製造し、 潤っていた

時代の焼酎づくりへと確立されていったのではないかと考えられます。球磨地域の焼酎造りの原点がどこにあるのかは、もっと詳しい人に聞いてみたいものです。

初日に見学した「太田家」は、江戸末期の建物であり、国指定の重要文化財に指定されています。この太田家の土間には兜式蒸留式で焼酎を造っていた竈が残されています。江戸末期には、このような素朴な蒸留機で焼酎を造り、商いとして成り立っていたようです。太田家では明治8年に24石の米を原料に8石一斗一升五合(1升瓶換算で約810本)の焼酎を造っていたとのことですから、焼酎は、米より相当高値であったようです。

#### ●なぜ人吉盆地は瑞穂の国であったのか

人吉盆地は数百万年前までは琵琶湖に次ぐほどの湖であったといわれています。この湖の水が引いてしまうと周辺には市房山、白髪岳など千メートル級の山々に森林が群生し、常に清浄な地下水を供給し続けてきた地域です。

また、16世紀末ごろから1世紀にわたって掘削工事を行い、延長19キロの灌漑用水路「百太郎溝」ができたことが、この地域に米収穫増の恵みをもたらしたものと言われています。この水路による灌漑面積は1,400ha(14km²)であり、上球磨地域の扇状地の水田化を著しく進めています。

このように豊饒な土地柄で有り余る米、良質な水があったからこそ、この地域だけに米焼酎づくりが脈々と受け継がれてきたものと考えられます。



木下醸造所代表の木下弘文氏

昭和56年、この地を訪れた社会学者の加藤 秀俊が、月刊誌「文芸春秋 (11月号)」で球磨 地域のことを「焼酎バレー」と紀行文に記して います。球磨川が貫流する人吉盆地のことを「焼 酎バレー」とは、まさにこの地に相応しいネー ミングです。

### ●米焼酎のシェアは 4~5%程度

概ね2年前(平成24年7月~平成25年6月)の本格焼酎の全国出荷数量(課税ベース)をみてみると芋焼酎と麦焼酎がそれぞれ4割であるのに対して、米焼酎(泡盛を除く)のシェアは約4.4%と少ない状況です。

球磨焼酎だけをみても、家族経営の小さな蔵が多く、地域内や関東・関西の一部のファンに 呑まれている焼酎であるとのことでした。

焼酎の販売量は数年前のピークから少し落ちこんでいると聞きます。今では清酒業界も切磋琢磨して美味しい酒づくりを始めており、今後も清酒、焼酎、あるいはウィスキーやワインなど酒業界の競争はなかなか厳しい状況です。

しかしながら、今回の球磨焼酎蔵巡りで感じたのは、米焼酎の奥深さと可能性でした。

これから売り込み方次第では、もっと多くの

本格焼酎の種類別出荷量(平成24年7月~平成13年6月)

7T111700111	グ注放が田門里(下)	<u> </u>	「残し十八万/	
		出荷量(kl)	構成比(%)	前年比
	芋焼酎	206,198.1	43.3%	100.0%
	麦焼酎	199,431.2	41.9%	99.2%
米焼酎	泡盛以外の米	20,959.2	4.4%	97.4%
不知的	泡盛	25,070.3	5.3%	97.470
	そば焼酎	10,065.4	2.1%	93.7%
	酒粕焼酎	539.9	0.1%	89.9%
	その他焼酎 糖、胡麻など)	13,442.0	2.8%	97.2%
	計	475,706.1	100.0%	99.2%

資料:国税局 焼酎出荷量



木下醸造所のシンボルの煙突。 代表銘柄「文蔵(ブンゾウ)」の文字が目印

人に球磨焼酎の良さが認められるのではないか と思いました。

今回、特にあさぎり町、多良木町で視察した 家族経営の蔵、4箇所を紹介します。

#### ●木下醸造所

人吉市内から30~40分ほど車を東に走らせ、 多良木町の木下醸造所を訪れました。

醸造所は、茅葺き屋根の上にトタンが被された江戸末期の建物であり、この建物に併設された工場で製造されています。

今でも昔ながらの「ブンゾウ」の名が記された煙突が建てられています。煙突がなければ、通り過ぎてしまうほど周辺の民家の一角といった風情です。

代表の木下弘文氏は、何代目かは定かでありませんが、この醸造所は、初代からの縁者で継承されており、当時から同じ場所で焼酎を造り続けています。創業は1862年(文久2年)です。

熊本に「六調子」という民謡がありますが、 その中で「田舎庄屋どんの城下見物・・・・・多良 木の文蔵爺・・・・」という歌詞があり、その文蔵 爺が創業者とのことです。その創業者の名「文 蔵」を焼酎の銘柄として使用しています。

ここの焼酎は、全て常圧蒸留であり、カメ仕 込みです。

この蔵には地下にタイル張りの貯蔵槽が設置 されており、ここで寝かせた焼酎をカメに移し、 味を調え、出荷されています。

生産量は、年間約300石(1升瓶換算で3万本)程度であり、出荷先は県内4割、関西・関東が6割だそうです。熊本や球磨地域出身の古



松本酒造場の玄関口、奥に工場がある



代表の松本敏幸さんから焼酎づくりの基礎的な知識 を学ぶ

くからの根強いファンが今でも全国で飲み続け ているようです。

焼酎の仕込みは毎年11月から翌年の3月に3人で行っており、4月以降は販売の方に回るとのこと。

木下醸造所の由緒ある母屋で試飲させていた だいた10年ものの「文蔵」は、なんとも言え ぬコクと香りがあり、これが米焼酎の本流の味 ではないかと思った次第です。

#### ● (資) 松本酒造場

夕方の5時前ぐらいに松本酒造場に到着。 酒造場の前のコンビニの駐車場に、あさぎり町 の愛甲町長自らお出向けいただき、松本酒造場 に案内していただきました。

松本酒造場では、5代目当主の松本敏幸氏に 米焼酎づくりの製法について、麹菌や酵母の役割など基礎的なことについて、丁寧に説明して いただきました。当主の敏幸氏は、某農業大学 の醸造科に在籍されていた時に抽出した酵母を 使った焼酎「萬緑(ばんりょく)」を開発され、 主力商品のひとつとなっています。

松本酒造場では、主に地元の米(ヒノヒカリ)



宮原酒造代表の宮原淳一郎氏



宮原酒造で造られている焼酎

を使用し、年間約200石(1升瓶換算で2万本) 出荷されています。ここも木下醸造所と同じく 11月から3人で仕込まれており、家族経営での 焼酎蔵です。

ここで松本敏幸氏から焼酎造りの行程について科学的に丁寧に解説していただきました。また、蒸留機の構造(中に入っている管から高温の蒸気を出すようになっている)や冷却器(トグロ上になった管内に冷水を流し冷却する構造)の仕組みなど、かなりメカニックなことも教えていただきました。

松本酒造場では、若い当主によって新たな酵母から新商品が開発されるのを期待したいと思います。

## ● (資) 宮原酒造場

2日目の第1番目の蔵巡りは、宮原酒造場からでした。当日は、あいにく仕込中ということもあって工場内を視察することはできませんでしたが、玄関ロビーで5代目当主の宮原淳一郎氏に丁寧に応対していただきました。

宮原酒造場の誕生のいきさつについては、先 にあげた「球磨焼酎」の本の各蔵紹介のなかで



高田酒造場の玄関口 九代目又助氏に因んで のれんも又助の文字

次のように記されています。

- ・宮原酒造場は、明治29年創業。創業者・宮原 二四郎氏が仕事の関係で球磨・人吉に来るよ うになって親しくなった人から「米が余って いるので、焼酎を造らないか」と勧められた のがきっかけであった。
- ・創業初期の頃のラベルには神社鳥居と社殿が 刷り込まれているが、これは初代二四郎氏が 信仰心篤かったためとのこと。

明治29年頃、この地方では有り余るほど米が収穫されており、本当に豊饒な土地柄です。

宮原酒造場では、常圧蒸留に拘っておられ、常圧と減圧の割合は、だいたい8:2 だそうです。 出荷量は年間約4万本。主な銘柄は「宮の誉(単式蒸留 カメ仕込み・カメ貯蔵 常圧 3~5年熟成)」「十年の転た寝(単式蒸留 カメ仕込み・カメ貯蔵 10年熟成)」「くませんにん(減圧、タンク貯蔵)」です。

ここで淳一郎氏が言われているなかで、特に 印象深い言葉を聞くことができました。

「最近、減圧蒸留の焼酎が増えたことで、飲み手が浮気型になったようだ。」 浮気型とは淳一郎氏いわく、「もっと美味しいもの、もっと違ったもの」を求めるようになった消費者のことです。これは頑なに昔ながらの常圧蒸留の臭み (コク) のある焼酎を愛飲している消費者とは対極にあるのではないかと思われます。

#### ● (資) 高田酒造場

明治30年創業。焼酎はすべて手づくりで昔ながらの石蔵の麹室、カメ仕込みを受け継ぎ、



12 代目当主 高田啓世氏(中央)



宮原酒造で造られている焼酎

こだわりの少量多品種の焼酎を造られていま
す

当日は、12代目、高田啓世(たかひろ)氏に 工場を案内していただき、丁寧に焼酎づくりの 説明をしていただきました。

特に試飲コーナーで各銘柄の製法(麹や酵母の違いや熟成方法など)などをお聞きすると、 米焼酎のあらゆる可能性にチャレンジされておられ、また、兎に角、当主の焼酎づくりのこだわりと遊び心が感じられました。

主なこだわり焼酎をあげてみると以下のよう なものがあります。

- ・「あさぎりの花」: ナデシコの花酵母を使用。
- ・「山ほたる」: 酒米の王者山田錦を使用し、吟醸したての米焼酎。
- ・「遊木」: 熊本県内で最古といわれる石蔵で貯蔵された樽焼酎。コニャックのような香りただよう焼酎である。
- ・「郷の鴨遊び」:無農薬アイガモ農法米「ヒノ ヒカリ」のみを使用した焼酎
- ・「オークロード」:樫樽で3年以上寝かせた薄

琥珀色の米焼酎。

生産量は、年間約  $400 \sim 450$  石(1 升瓶換算で  $4 \, \mathrm{J} \sim 4.5 \, \mathrm{J} \sim 4.5 \, \mathrm{J}$ )。ここでも仕込みは  $3 \sim 4$  人とのこと。高田酒造の詳しい歴史や高田氏の焼酎にかける思いは、平成  $15 \, \mathrm{年に編集}$ された  $100 \, \mathrm{周年の記念誌「蔵遊び」に綴られています。$ 

高田酒造場では多様な焼酎造りに取り組まれていることから減圧蒸留の方が約8割と多い。 試飲コーナーでは、5~6種類の焼酎を飲ませていただき、本当に幸せな気分になりました。

高田酒造場では、こだわりの焼酎を造っているとのことで、某有名百貨店からオリジナル焼酎の依頼も来るそうです。

ちなみに私が高田酒造場のことをフェイス ブックで投稿すると、東京の知り会いから『山 ほたるは、最近私の愛飲している焼酎です』と の返事があったのには驚かされました。

また、当日は現当主の高田氏と息子さん(13代目)、お孫さん(14代目)の3世代がお揃いであり、最後には記念撮影をさせていただきました。

今回、6つの蔵を駆け巡りました。

私は、学生時代から鹿児島に 10 年在籍していた関係で焼酎は芋派ですが、改めて米焼酎の 奥深さに感動した視察旅行でした。

米焼酎の良さをあげると、次のようなことに つきるのではないかと思います。

- ①減圧蒸留の米焼酎は、スコッチウィスキーの 専門家が言ったように、特徴のないのが素晴 らしく、いろんな蒸留酒に加工できる多様性 がある。
- ②夏はロック、水割り、冬はお湯割りといろん な飲み方が楽しめる。個人的には、米焼酎は ロックの方が良いように思う。
- ③減圧蒸留の米焼酎は、芋焼酎ほど味に癖がないことから、どんな料理にも合うように思う。このように毎年、焼酎学会で蔵巡りをさせていただき、勉強をさせていただくことで、焼酎をもっと知りたいといった思いが高まるのは私だけではなかったでしょう。

(やまだ たつお)

# 近 況

# Ѭ「ヘリテージマネージャー養成講習会」3年 計画

昨年から福岡県建築士会まちづくり委員会主催の「ヘリテージマネージャー (地域歴史文化遺産保全活用推進員)養成講習会」に参加しています

もともとヘリテージマネージャー養成のきっかけは、平成7年(1995年)の阪神・淡路大震 災のときに、倒壊した重要文化財の建物はコストをかけ、保存したのに対して、登録文化財級の建物は、少しコストをかければ修復できたのに、危険家屋として取り扱われ、壊されてきたという苦い体験があったからです。このような問題があったことから、平成8年に文化財保護法の一部改正が行われ、登録有形文化財の制度ができました。

この活動は、地域に眠る歴史的文化遺産を発見し、保全・活用し、地域づくりに行かす能力を持った人材を育て、優れた地域の歴史文化遺産を保全していこうというものです。既に全国で30数県が養成講習会を実施しています。

各県のお世話役が集まった「全国へリテージマネージャーネットワーク協議会」も立ち上げられ、昨年の10月23日、福島県郡山市で第3回総会が実施されました。私も福岡県建築士会まちづくり委員会副委員長という立場で、はじめてこの大会に参加させていただき、熱い思いのある人々の集まりに圧倒されました。

福岡県の養成講習会も第2回目を迎えていますが、参加される方は元ゼネコン、大工さん、行政マンと多彩であり、非常に熱心です。この養成講習会は15回、60時間の講習を受講しないとヘリテージマネージャーの資格を与えてもらえず、1回でも欠席すると、その欠席した講座のみ次年度以降に再受講となっています。ほぼ2週間毎、土曜日の午後は講習会に充てないといけなく、日時の調整は大変です。私は、仕事の関係で既に3回欠席しており、前途多難です。初めから3年計画で卒業できれば良いと思っ

ていますので、少しは気が楽なのですが、欠席 した講座が、次年度以降、私の都合にあわせて タイミング良く実施される保証はなく、果たし て3年で卒業できるかどうかは運任せといった 感があります。

それよりも記憶力も低下した頭脳では、受講 した知識は光陰矢のごとく、遠のくは速く、次 年度以降、講座について行けるかも心配です。

(山田 龍雄)

#### ☆ 安心な居住環境を考える

昨年の新しい経験の仕事として、自主防災の ワークショップや避難訓練の支援があった。一 昨年から少しは関わっていたのだが、関わった モデル地区の数が増えるにつれて、なんとなく 感じていた問題点や課題が少しずつはっきりし てきた。結局のところ、仕事ではあるものの、 自分自身にも関わる問題であり、自分の親だっ たらどうか、親族だったら、住まいだったら、 ということを考えざるを得ない。

日頃の付き合いの大切さは、長野県の白馬村を襲った地震の被害の少なさで実証されたと思う。これは、農山漁村でしかあり得ないことなのか。都市では不可能なことであろうか。

今住んでいる地区は、中高層住宅の林立している地区、おそらく相当な数の居住者がいる。

また、戦後すぐに建築された低層集合住宅が 建て替えられた地区でもあり、若い世帯も見か けるが、高齢者も多い地区である。しかし、ま ちなかのマンションと同様に、活発なコミュニ ティ活動が行われているという様子は無い。

PTA など子どもの付き合いによるコミュニティ活動は行われているのであろうが、隣の人とのコミュニケーションはほとんど無い。

横須賀のニュータウンのマンションでは、住 民共助の学習と自主防災体制の取り組みが行わ れており、事前の予防策、リスクマネジメント の必要性が共有されている。2005年の地震から 10年が経ち、記憶が薄れかけているが、大規模 改修も終わり、今一度、安心して暮らせる環境 づくりへの取り組みを考えたい。

(山辺 眞一)

# 福岡マラソン 2014 にて、サブスリー達成しました (^^)/

昨年11月、地元福岡市での初の市民参加型フルマラソンとなる、「福岡マラソン2014」に参加した。初めてのフルマラソンは2013年4月のさが桜マラソンで、タイムは3時間52分。2回目の青島太平洋マラソン(宮崎市)では3時間18分、その次の2014年4月のさが桜マラソンで3時間9分と、順調にタイムを縮め、今回の目標は3時間切り、いわゆる「サブスリー」の達成であった。

人生で、サブスリー達成のチャンスはそう多くないと思ったので、福岡マラソンに照準を合わせ、次の様なライフスタイルに変えた。

①糖質を減らし、タンパク質多めの食事を取る

昼食はできるだけ自分で弁当を作り、豆腐と納豆、サラダを基本とした食事とし、夜もご飯控えめ、タンパク質多めの食事とした。ただ、極端な糖質制限ではなく、たまにはラーメンやうどんなども楽しみ、適度にするのが長続きする秘訣だと思う。

## ②走って通退勤

リュックに PC や着替えを詰め込み、往復 10 km走って帰る。後半は自分が保育園の送り迎え担当になったので、行きは普段着で、地下鉄や自転車で通勤し、帰宅時のみランニングウェアに着替えて走って帰ることが多かった。

③日曜は仕事がなければ朝食前に 30 km走る

朝食前に有酸素運動をすると脂肪を燃やしやすいだろうと思って始めたが、後から専門家の



スタート地点の福岡市天神地区からゴール地点の糸 島市役所志摩庁舎へ、ランナーの荷物を配送するト ラック



いつもは待ち合わせや休憩のスペースが、ランナ-の着替えの場に

本などを読むとこれが正解だったようだ。最初は足や腕が筋肉痛になったが、面白いもので3回目位から身体は慣れ、走った後でも普段通りの生活を送れるようになった。ただ、家族によると、ロング走をした日は若干短気になる模様。 ④水曜と土曜はスピードを上げて走り、心肺を鍛える

練習方法はこれまで自己流だったが、五輪金メダリストの高橋尚子選手らを育てた小出義男監督の著作「30キロ過ぎで一番速く走るマラソンサブ4・サブ3を達成する練習法」に書いてある3ヶ月間のサブスリー達成用練習メニューを実行した。具体的には水曜は帰宅時にキロ4分で走ってレースペースを体に染み込ませる、土曜は短距離でも全力で走って限界スピードを上げる日というように、心肺を追い込む日を設け、練習にメリハリを付けた。

この練習メニューは3か月間分あるのだが、 当然仕事や家庭の事情でそれを毎日実行することは困難だ。しかし、泊まりの出張先には靴を持って行きご当地を走る、週末は家族が起床する前にランニングを済ませるなどやりくりしながら、ほぼ達成できた。

よく、マラソンはレースを走る前に勝負がついていると言う。これは全く同感で、自分は小 出監督のトレーニングメニューをやり遂げたので、あとはコンディション次第でおそらくサブスリーを達成できるだろうという自信はあった。

そしてレースのペース配分や補給のタイミン グなど、当日の計画を立て、前日の夕食は大盛



サブスリー達成証拠写真

りのパスタを平らげて体のガソリンとなるグリ コーゲンを蓄え、準備万端。

当日は残念ながら雨。朝食におはぎ3つと梅 干で糖質とクエン酸を補給し、6時過ぎの地下 鉄に乗ると、すでにランナーがたくさん乗り込 んでいた。地下鉄天神駅に着くと、ランナーが 天神地下街を走ってアップしていた。また、ソ ラリアプラザ1階や警固公園周辺が着替え場や トイレなどランナー専用スペースになってお り、いつも歩行者で賑わう交差点に荷物運搬用 のトラックがずらりと並んでいたりと、普段見 慣れた光景とは一変。街中にランナーがあふれ ていて、テンションが徐々に上がった。

雨はスタート直前に上がり、午前8時20分に福岡市・天神のど真ん中、渡辺通・天神交差点付近をスタート!渡辺通りを通過した後は、海沿いの道を西に向かう。スタートして5km、福岡ヤフオク!ドーム周辺で、応援に来てくれていた家族を見つけ、立ち止まって子どもたちの頬っぺを触って元気をチャージ。西区の今宿地区では、地元漁協の皆さんが今津湾に船を浮かべ、汽笛やラッパを吹いて応援してくれていた。船から応援してもらったのは初めてだったので、とても印象的で、精一杯手を振って御礼をした。

西区を過ぎて糸島市に入ると、スタート当初の都市型マラソンの雰囲気とは随分違い、漁村の街並みや田園景観の中を走る。このあたりは、近所のおばあちゃんたちの農作業の手を休めての応援もあり、まさにローカルマラソンの雰囲気であった。15kmまではキロ4分20~25秒ペー

スで抑え気味に走った。

折り返し地点の九州大学伊都キャンパス付近と、30 km地点の二見ヶ浦手前は高低差数十メートル登る。特に二見ヶ浦手前は今回のコースで最もきついエリアだが、久住出張や加計呂麻島出張の朝に走った山道や激しいアップダウンを思い出したりしながら、何とかペースを崩さずクリアできた。15 キロから 30 キロまでは 4 分15 秒ペースに少し加速。

その後、小出監督の教え通りに30kmを過ぎてからギアを一段上げ、毎週水曜日の帰宅ランと同様、4分ペースで走った。40km地点で3時間のペースランナーを抜いたときは、今まで積み重ねたトレーニングのことを思い出し、何とも言えないうれしさがこみ上げ、胸が熱くなりながら小さくガッツポーズ!41km、42kmはさらにペースアップしてキロ3分50秒ペースで走ることができた。結果、2時間58分35秒でゴール、やったー、サブスリー!ゴール後は何とも言えない、じんわりとした達成感を味わうことができた。

スタートからゴールまで常に気持ちは前向きで、沿道に応援しに来てくれたボランティアの方々との会話やハイタッチをしながら、とても楽しく走れた。何より嬉しかったのは、計画通りに3ヶ月のトレーニングができ、計画的に体脂肪を落とすことができ、当日も5kmごとのラップが事前に立てたレースプランと数秒しか違わないペースで走ることができたこと。これは、計画づくりを仕事としている者として、とても嬉しいことであった。また、天気は曇りで最高気温18度、風も弱く、快適なコンディションだったことも幸運だった。

第一回福岡マラソン・フルマラソンの部の 参加者は1万173人で、男性が78%、女性が22%。約3割が初挑戦だったそうである。自分は103位の成績を残すことができた。

これ以上記録を追究することは、体力的にも、時間的にもなかなか難しいかもしれないが、今後もぼちぼちと各地のレースに参加しようと思う。そして旅に出るときはいつもジョギングシューズを持って行こうと思う。特に出張先の

ロードや野山を走ることは、当地の自然・街並みを体感でき、仕事と趣味を兼ねる。また、機会があればロードやトレイルのコース検討や、大会運営にも関わることができればと思う。

(原 啓介)

## ※ 念願の第一区分?!

よかネット No. 115 で、ブルーインパルスにはまっている事を書きましたが、その後 11 月頭に埼玉の入間基地航空祭に行ってきました。

当日は、晴れてはいるものの雲がでている天 気。天候等が好条件の時に行われる第一区分は 厳しいかなと思っていましたが、ブルーの展示 飛行の時間になると、エプロンの前に雲の無い 空域ができ、始まったのは、念願の第一区分!!

6機揃っての迫力に満足していたところ、雲の影響で途中から第三区分に変更になってしまいました。若干、消化不良なものの久々に見たブルーの飛行に感動しました。

もともと入間の航空祭には行く予定にしていませんでした。というのも、一昨年の入間の航空祭は来場者数が約32万人と全国一の来場者数。なにもわざわざ埼玉まで行って、人混みにまみれる必要もなかったのですが、東京で別に用事があり、せっかくなので入間も行く事にしたのです。ちなみに今回も約29万人と相変わらずのすごい人出でした。しかしこの後の出来事で、私は入間に行っておいて良かったと心から思うようになるのです。

それは11月中旬、地元福岡の芦屋基地航空 祭に行った時の事です。天気は雲が出ているも のの切れ間からは、青空が見える状態。



入間でのブルー。 第一区分で行われ る演目。ぐんぐん 上昇した後、宙返 りを行い急降下し ているところです



芦屋でのブルー。通常は悪天候などで飛べない場合 に行われる地上滑走。まさか晴れた日に見る事にな るとは。

この日は、特に午後からの米軍機 F-16 とブルーの展示飛行を楽しみにしていました。昼頃から、プログラムには載ってないのにヘリコプターが飛んでいて、何だろうと思っていたら、水難救助のために県警のヘリが飛んでいたようです。そしてこの水難救助が展示飛行に必要な空域内だった為、午後の飛行が中止になってしまいました。

そのリベンジの為、11月下旬、築城基地の航空祭に行く予定にしていましたが、寝坊してしまい、昼頃から雨が降る予報になっていたので、行くのをやめました。結局、雷雲の影響で航空祭自体が13時までで中止になった為、ブルーは飛ばなかったそうです。まさか入間が去年ブルーの飛行を見た最後になるとは思っていませんでした。

今年は是非「フル」の第一区分を見たいので、 他の基地の航空祭にも足を伸ばそうと思ってい ます。 (佐伯 明日香)

## 🗱 日本酒にハマっています

所内での利き酒の地域ゼミをきっかけに、日本酒にハマっています。昨年は3月の鹿島の酒蔵ツーリズムや9月には若手の夜明け(日本酒の会)などにもいってきました。記事にも書いたように筑後の酒蔵も巡ったりしています。

普段から相当酒を飲んでいるように思われていますが、実はそうでもありません。自宅ではビールをやめて、4合瓶の日本酒を2週間かけてチビリチビリ飲んでいます。なので、毎回違う銘柄を探すのが楽しみでもあります。

日本酒は種類がありすぎて、どれがいいか全然分からないという話をよく聞きます。私もワインはまったくわからないので、その気持ちがよくわかります。本に載っているようなお酒は、近くの酒屋ではまず見かけません。なので私の場合、日本酒に愛情を持っている酒屋さんを探すことにしています。今の時代、ネットで情報はいくらでも出てきますが、逆に自分の好みがわからないことが問題だったりします。酒屋もそのあたりをよく分かっていて、相性がよさそうなお酒を提案してくれます。いい酒屋はもうコンシェルジュが仕事になっていますね。

日本酒のことをよく話題にしていたおかげで、昨年末には筑後のまちづくりや地域づくりに係る仲間に、筑後地酒の研究会の立ち上げメンバーに加えてもらいました。今年は、これまで以上にお酒と縁がありそうです。

(本田 正明)

# 一次 冷蔵庫の品定めからライフスタイルの変化に気づく

我が家の冷蔵庫は、既に10年以上使用しており、そろそろ買い換えどきではないかと思い、電化製品の量販店に行き、冷蔵庫の品定めをしてきました。

そこで、ビックリしたのが冷凍庫の容量が大きくなり、しかも中央部にあり、下の棚が野菜庫になっていることでした。我が家では、ほとんど冷凍食品は使用しないので、下の棚の方に冷凍庫があった方が都合が良いのですが、冷凍庫が下の棚にあるメーカーは1社のみでした。

やはり、ここ 10 年ぐらいの間で冷凍食品を 使用する世帯が増え、その地位があがったため、 その棚の位置もあがったものと思います。

冷蔵庫の品定めが、ライフスタイルの変化に 気づく結果になるとは、思いもよらぬことでし た。

世間では、冷凍食品を多く使用する世帯が増えているということでしょう。確かにスーパーマーケットの冷凍食品コーナーに行くと、いろいろな種類のものがあり、年々充実しているように思います。

今度、本当に買い換えるときになった場合、

冷凍庫が下の棚にある冷蔵庫を製造している メーカーが残っているのかどうか不安ですが、 その時には意に反して、中央部に冷凍庫がある 冷蔵庫を買わざるを得ないのでしょう。

(山田 龍雄)

## ₩ 結婚しました

私事ではありますが、12月7日に挙式・披露 宴を執り行いました。彼女とお付き合いを初め てちょうど1年を迎えた日でした。私も気がつ くと31歳(今月には32歳)となり、「いつか は、結婚するんだろうな」と思っていましたが、 正直、自分でもあっという間に結婚まで至った と思っています。親父から、「俺が結婚した歳 までには、結婚しろよ」と言われていましたが、 何とかクリアしました。

彼女とは、機関誌よかネットでも度々ご紹介 している佐賀市富士町の農家、木下さんにお世 話になっている親農塾を通して知り合いまし た。去年の夏、枝豆の収穫の際に、たまたま出 会ったのが始まりです。最初は、軽く言葉を交 わす程度でした。人と人との縁は、いつ、どこ で生まれるか分からないものです。

さて、おそらく人生最初で最後の挙式・披露

宴を行ったわけですが、準備がここまで大変だ とは思いませんでした。式を挙げると決めたの が7月。そこから、会場を探し、下見をして、 決めたのが8月。それから4ヶ月間、毎月1回 ~2回、土日のどちらかで式場に出向き、打ち 合わせをしました。打ち合わせは、衣装決めに 始まり、料理や引き出物の打ち合わせ、式の内 容、BGMの確認、神社の予約、指輪の発注、招 待状の発送と席次決め、料理の試食・決定、引 き出物の決定などなど。打ち合わせることも、 こんなにあるのかと思いました。そして、あれ も、これもと言い出すと、すぐに予算オーバー となります。そちらも睨みつつ、妻と相談しな がら決めていきました。意見が食い違うことも あり喧嘩もしながらでしたが、その時にしか経 験できないことを、しっかり経験できたと思い ます。

本番はあっという間に終わりました。初めの 挨拶では上がってしまって、しどろもどろと なったのもいい思い出です。

まだまだ未熟な者同士、これからも皆様のご 指導、ご鞭撻の程、よろしくお願いします。

(山﨑 裕行)

#### 表紙の続き ------

福岡県の成人一人当たりのお酒の年間消費量を最近12年間の推移でみてみました。平成12年頃は1人99Lほど飲んでいましたが、平成24年になると80Lと2割減少しています。特にビールが54Lから24Lと半減しています。発泡酒も平成14年には26Lも飲まれますが、第3のビールが含まれるリキュールなどに押され、平成24年には10Lを割り込んでいます。焼酎は平成15年頃の焼酎ブームの影響もあり、平成12年と比べて3割近く増えますが、最近は落ち着いて

きているようです。

果実酒(ワイン)は、消費量としては清酒(日本酒)よりも少ないことにちょっと驚きましたが、年々減少する清酒に対し、果実酒は平成16年頃に減っていたものが、近年再び増え始めています。清酒にももっと頑張ってもらいたいです。チューハイなどの新ジャンル飲料が含まれる「その他の醸造酒等」もかなり増えており、焼酎と同量程度飲まれています。新しいお酒の需要はまだまだあるようです。(本田 正明)

単位(リットル)

١	単位(リツ							立(リツト)レ/			
		清酒	単式蒸留 焼酎(乙類)	ビール	果実酒	ウイスキー	発泡酒	リキュール	スピリッツ 等	その他の 醸造酒等	合計
	H12	8.6	7.8	53.8	2.3	0.9	18.7	2.7	0.2	0.2	99.0
	H14	7.5	8.5	40.6	2.1	0.8	26.4	4.0	0.2	0.1	93.7
	H16	5.8	9.8	34.8	1.7	0.6	23.4	4.8	0.4	2.0	86.9
	H18	5.4	9.7	30.5	1.8	0.5	17.2	5.4	0.6	9.5	84.5
[	H20	4.9	9.1	27.6	1.7	0.5	15.0	9.3	1.0	7.4	80.1
	H22	4.7	8.5	24.9	2.0	0.7	11.2	14.9	1.5	8.0	80.1
ŀ	H24	4.6	8.3	24.3	2.7	0.7	9.3	17.2	1.7	7.8	80.1

※合成清酒、連続式蒸留焼酎(甲類)、みりん、ブランデーなどを除くため、合計が一致しない 資料:国税庁統計年報書より作成



# 「野に生きる〜 サンタのいた日々」

重松博昭 著石風社

昨年の11月初旬、何の前触れもなく重松さんから本が贈られてきた。これは重松さんの3冊目の著書である。重松さんと知り合いになったきっかけは、重松さんの奥さんと私の高校時代の友人とが知り合いであったことから、一度、会いにこないかと紹介されたからであった。25年前の話である。

これがご縁で手づくりの家にお邪魔した。傾斜地に建っている家は、開墾者の家といったイメージであり、その迫力に圧倒されたことを覚えている。

その後、弊社の地域ゼミでも「我が農業について」というテーマでお話していただいた。

重松さんの最初の本は「羊と暮らした(葦書房:1998年)」。この本は、重松さんが大学を中退し、嘉麻市上山田(旧山田市)の雑木林を開拓し、無手勝流で農業、養鶏をはじめられ、3人の子供さんの育児、農地の近くで起こったゴルフ場建設や産業廃棄物などの環境問題への関わり等について語られている。この本は、重松さんの近代社会のレールに乗らない生き様、その凄まじさ、滑稽さもある体験談に引き込まれ、一気に読破した。

サンタとは犬の名前である。奥さんが中学校の教師をしていたときに生徒達が拾ってきて、もらい手がなく、奥さんが連れてきた犬である。この本は、このサンタとの暮らしを中心としながら、これまでの重松さんが生きこられた暮らしと、その後の子どもたちの成長の過程が綴られている。

また、子どもたちが大学や就職で我が家を巣立ったあとに、サンタとの愛情ある触れ合いが 綴られている。サンタには、単に番犬としてで はなく、自由を満喫してもらいながら人間と折 り合いをつける暮らし方をすることを決意し、 悪銭苦闘されている。

サンタにあまりにも自由を与えすぎると他所の家の雌犬のところに入り浸りとなってしまい、ご近所に迷惑もかかるので、サンタが自由に走り回れる裏山、遠賀川河川敷等々、いろんな場所を探し回られている。ある程度の自由さを認めながら犬を飼うことがこんなにも大変とは、大人になって犬を飼ったことのない私にとっては新鮮な驚きであり、感慨にふける。

重松さんの自然なかで暮らしている人でない と書けない、草花や木々から感じ取れる季節の 移ろいに対する描写の筆力には、いつも感心さ せられる。

この本を読むことで、私を含め、毎日、時間 に追われているような暮らしを、少し振り返っ てみてはどうでしょうか。 (山田 龍雄)

#### 編集後記 ------

## よかネット No. 117 2015.1

(編集・発行)

㈱よかネット

〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町3番8号 福岡パールビル8階

TEL 092-283-2121 FAX 092-283-2128

http://www.yokanet.com mail:info@yokanet.com

(ネットワーク会社)

㈱地域計画建築研究所

本社 京都事務所

TEL 075-221-5132

大阪事務所

TEL 06-6942-5732

東京事務所

TEL 042-501-2531

名古屋事務所

TEL 052-202-1411

(株地域計画·名古屋